

令和6年春の全国交通安全運動青森県実施要綱

目的

本運動は、広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、県民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

期間

- 1 運動期間 4月6日(土)から15日(月)まで(10日間)
- 2 交通事故死ゼロを目指す日 4月10日(水)

運動重点

- 1 こどもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践
- 2 歩行者優先意識の徹底と「思いやり・ゆずり合い」運転の励行
- 3 自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守

運動の進め方

運動を効果的に推進するため、推進機関・団体は、相互に連絡協調を図り、それぞれの業務分野に応じた、効果的な実践活動の推進を図る。

市町村は、交通安全対策協議会等の構成機関・団体と十分協議して、地域の交通実態に応じた、住民参加型の交通安全運動を積極的に推進する。

みんなで交通ルールを守ろう!
一人一人の心がけて交通事故をゼロにしよう

自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守

歩行者優先意識の徹底と「思いやり・ゆずり合い」運転の励行

こどもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践

令和6年4月6日(土)～4月15日(月)
春の全国交通安全運動

4月10日(水)は「交通事故死ゼロを目指す日」です

4月10日(水)は「交通事故死ゼロを目指す日」です
みんなで守って交通事故をゼロにしよう

こどもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践

歩行者も交通ルールを守ろう! みんなで安全確認!

通学路等における見守り活動を行きましょう! 地域・家庭で通学路等の安全を確認

歩行者優先意識の徹底と「思いやり・ゆずり合い」運転の励行

横断歩道は歩行者優先! 「思いやり・ゆずり合い」運転を心がけましょう

飲酒運転を絶対にしない! させない! あおり運転はやめよう!

自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守

自転車・電動キックボード等利用者はヘルメット着用!

自転車・電動キックボード等利用時も交通ルールを守ろう!

令和6年4月6日(土)～4月15日(月)
春の全国交通安全運動

運動重点に関する主な推進項目

1 こどもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践

(1) 通学路を始めとした安全な道路交通環境の確保

- ア 通学路、未就学児を中心にこどもが日常的に集団で移動する経路等における見守り活動等の推進
- イ 「ゾーン30プラス」の整備を始めとする生活道路の交通安全対策の推進
- ウ 通学路交通安全プログラム等に基づく点検や対策の推進
- エ 通行の妨げとなる不法占用物件の排除等、道路の適正な利用についての広報活動等の推進

(2) 歩行者の交通ルール遵守の徹底

- ア 歩行者に対し、横断歩道を渡ること、信号機のあるところでは、その信号に従うこと等の基本的なルールの周知に加え、自らの安全を守るための交通行動として、運転者に対して横断する意思を明確に伝え、安全を確認してから横断を始めること、横断中も周囲の安全を確認すること等を促す呼び掛けの推進
- イ 歩行中幼児・児童(小学生)の交通事故の特徴(飛び出しによる死者・重傷者が多いなど)等を踏まえた交通安全教育等の推進
- ウ 安全に道路を通行することについて、日常生活や教育現場における保護者や教育関係者からの幼児・児童(小学生)への教育の推進
- エ 高齢歩行者の死亡事故の特徴(65歳未満と比較して横断中が多いなど)を踏まえ、高齢者自身が、加齢に伴って生ずる身体機能の変化(例えば、認知機能の低下、疾患による視野障害等の増加、反射神経の鈍化、筋肉の衰えなど)を理解し、安全な交通行動を実践するための交通安全教育等の推進
- オ 反射材用品等の視認効果や使用方法等の周知と自発的な着用及び明るく目立つ色の衣服の着用を促す取組の推進

子供の交通事故防止5つのポイント

- 1 「飛び出し」の防止をしっかりと指導しましょう。
こどもは、一つのことに注意が向くと、周囲のことが目に入りません。
- 2 「しっかり」見ることの意味、大切さをこどもの目の高さで指導しましょう。
こどもに見える道路の様子は大人とは違います。
- 3 通学(園)路を実際に見て確認し安全な横断の仕方を指導しましょう。
こどもは自分の位置と危険との関係の認識が未熟で直感的、感覚的に行動します。
- 4 信号が青でも右左折車などが来ることを理解させ、
常に右左の安全を確認するよう指導しましょう。
こどもは「青信号は安全」だと思いこむ傾向にあります。
- 5 注意するときの「声かけ」は具体的に分かりやすくしましょう。
こどもは抽象的な言葉だけでは危険を理解することができません。



(1) 運転者の歩行者優先意識の徹底

- ア 交通ルールの遵守と歩行者や他の車両に対する「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持って通行する交通マナーの呼び掛け
- イ 横断歩道等に歩行者等がないことが明らかな場合を除き、直前で停止可能な速度で進行する義務や横断歩道等における歩行者等優先義務等の遵守を促す取組の推進
- ウ 運転者に対し、歩行者優先の徹底を始め、安全に運転しようとする意識及び態度を向上させるための交通安全教育や広報啓発の推進
- エ 運転中のスマートフォン等の使用や注視の危険性についての広報啓発の推進
- オ 夜間の対向車や先行車がない状況におけるハイビームの活用を促す取組の推進

(2) 飲酒運転の根絶

- ア 「飲酒運転を絶対にしない、させない」という「飲酒運転を許さない社会環境」を醸成するため、交通事故被害者等の声を反映した広報啓発活動等のほか、飲食店等における運転者への酒類提供禁止の徹底やハンドルキーパー運動の促進など、地域、職域等における取組の推進
- イ 運転者に対するアルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認等、業務に使用する自動車の使用者等における義務の遵守の徹底

(3) 妨害運転等の防止

- ア 妨害運転等の悪質・危険な運転についての広報啓発の推進
- イ 「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持った運転の必要性、ドライブレコーダーの普及促進等に関する広報啓発の推進

(4) 高齢運転者の交通事故防止

- ア 高齢運転者に対する加齢等に伴う身体機能の変化が運転に及ぼす影響等を踏まえた交通安全教育及び広報啓発の推進
- イ 衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全技術を搭載した安全運転サポート車の普及啓発とサポートカー限定免許制度についての広報啓発の推進
- ウ 身体機能の変化等により安全運転に不安のある運転者等に対する運転適性相談窓口（安全運転相談窓口）の積極的な周知及び利用促進並びに運転免許証の自主返納制度及び自主返納者に対する各種支援施策の広報啓発による自主返納の促進
- エ 農耕作業用自動車運転時における交通ルール遵守の徹底

(5) 後部座席を含めた全ての座席のシートベルト着用とチャイルドシートの正しい使用の徹底

- ア 全ての座席におけるシートベルト着用とチャイルドシートの使用義務の周知・指導の徹底及びその必要性・効果に関する理解の促進
- イ シートベルトの高さや緩みの調整、チャイルドシートの確実な取付方法やハーネス（肩ベルト）の締付け方等、正しい使用方法についての広報啓発の推進
- ウ 高速乗合バスや貸切バス等の事業者に対する全ての座席におけるシートベルト着用を徹底させるための指導・広報啓発の推進

(6) 二輪車運転者に対する広報啓発

- ア 二輪車の特性の周知やヘルメットの正しい着用とプロテクターの着用による被害軽減効果に関する広報啓発の推進
- イ 若者層のみならず、中高年に対する二輪車安全運転教育・広報啓発の推進

3 自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守

(1) 自転車利用者のヘルメット着用と安全確保

- ア 全ての自転車利用者に対するヘルメット着用の必要性・効果に関する理解の促進と努力義務化を踏まえた着用の徹底及び正しい着用方法の周知に向けた広報啓発の推進
- イ 自転車の視認性を向上させるための反射材用品等の取付けの促進
- ウ 幼児を幼児用座席に乗車させる際のシートベルト着用及び幼児同乗中自転車の乗車・降車・停車時における転倒等の具体的な危険性の周知や安全利用に関する広報啓発の推進
- エ 自転車利用者等の安全を確保するための定期的な点検整備の推進
- オ 自転車事故被害者の救済に資するための損害賠償責任保険等への加入促進

(2) 自転車の交通ルール遵守の徹底

- ア 車道通行の原則、車道は左側通行、歩道は歩行者優先等の「自転車安全利用五則」にのっとった通行方法や自転車通行空間が整備された箇所における通行方法の周知と遵守の徹底を促す取組の推進
- イ 信号の遵守や交差点での一時停止・安全確認のほか、夜間の無灯火走行、飲酒運転、二人乗り、並進の禁止等交通事故防止のための基本的な交通ルールの周知と遵守の徹底を促す取組の推進
- ウ スマートフォン等使用や傘差し等の片手運転、イヤホン等を使用した運転の危険性の周知と指導の徹底
- エ 自転車を用いた配達業務中の交通事故を防止するため、関係事業者等に対する交通安全対策の働き掛けや自転車配達員に対する街頭における指導啓発、飲食店等を通じた配達員への交通ルール遵守の呼び掛け等の推進

(3) 特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

- ア 特定小型原動機付自転車に関する新たな交通ルールの周知と遵守の徹底及び被害軽減のためのヘルメット着用を促す取組の推進
- イ 特定小型原動機付自転車の利用者に対する販売事業者、シェアリング事業者等と連携した安全利用についての広報啓発の推進

自転車はヘルメットを着用！

警察庁によると、令和4年までの5年間に自転車の交通事故で亡くなった方の約6割が頭部に致命傷を負っています。また、死傷者数に占める死者の割合は、ヘルメット着用者と比較して非着用者は約2.1倍高くなっており、交通事故の被害を軽減するためには、頭部を守ることが重要です。自転車に乗るときは、乗車用のヘルメットを着用しましょう。



【まずは確認！】入っていますか？ 自転車の損害賠償保険

自転車の損害賠償保険には、①自転車安全整備店で点検・整備（有料）を受けた自転車に貼られる「TSマーク」付帯保険、②自動車保険や火災保険等の「特約」、③その他の自転車向け保険等様々な種類があります。

まずは、自分や家族が何らかの保険に入っていないか確認しましょう。